

# 行動規範 2024



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の その他の側面
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	--------------------------------

## 01 はじめに

- CEOのメッセージ
- 行動規範が必要な理由
- 私たちの責任
- 管理職の責任
- スピークアップ・カルチャー

## 02 個人の責任

- 親切心と敬意を忘れない
- 倫理的に行動する：インテグリティ
- ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンを尊重する
- お互いを尊重する職場を維持する
- 差別、ハラスメント、いじめを容認しない
- 職場での脅迫と暴力への対処

## 03 私たちの会社を守る

- 従業員の健康と安全を最優先する
- 人権を尊重して推進する
- 雇用機会の均等を確保する
- 利益相反の回避
- ソーシャルメディア上で責任を持って交流する
- マレリ全体に責任あるデータ慣行を浸透させる
- AI開発において責任を持つ

## 04 ビジネスインテグリティ

- 腐敗と贈収賄を防止する
- 犯罪関係の防止と排除
- 贈答品と接待の授受
- 政府や政治的実体を持つ機関に対して責任を持って対応する
- インテグリティを持つサプライヤーを選ぶ
- 第三者と責任を持って協働する
- 公正に競争する
- 世界の貿易法を遵守する
- プライバシーを尊重する
- 内部情報に基づいて取引しない
- 正確な記録と取引を維持する
- マネーロンダリング防止のためのコミットメント
- 情報セキュリティに注意する
- 機密情報と知的財産の保護
- マレリの資産を守る
- 対外的に正確に情報を伝達する

## 05 社会と将来世代への貢献

- 地域社会への参加とコーポレート・シティズンシップ
- 環境を保護し、サステナブルな世界を築く

## 06 コンプライアンスと行動規範のその他の側面

- 適用除外と変更
- 抵触
- トレーニング
- おわりに

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

# 01 はじめに

## CEOのメッセージ

マレリの皆さん、  
マレリの評判は、各従業員がマレリの価値観と文化を反映して行動することによって築かれます。私たちの同僚、顧客、ビジネスパートナー、社会は、マレリが常識、誠実さ、オープンな姿勢、敬意、インテグリティを持って仕事をすることを期待しています。マレリは、これらの期待に応え、マレリのビジネスと社会にとって正しいことを行うことを目指しています。この目的のために、マレリ行動規範（以下「行動規範」）は、私たち一人ひとりが守るべき共通の価値観や基本的な原則を定めています。また、私たちはビジネスパートナーやサプライヤーにも、マレリとビジネスを行う際に行動規範に定められた要求事項に従うことを求めています。



デービッド・スランプ、社長兼CEO、マレリ

ぜひ、皆さん一人ひとりが行動規範に慣れ親しみ、日々の行動を行う際のマニュアルとして利用してください。また、行動規範に沿わないと思われる行動や行為を見聞きした場合は、ぜひ、声を上げてください。皆さんのそうした声が、早い段階での警告になり、将来発生するかもしれない問題に早期の段階で対処することができる、という意味で、とても大切なことなのです。

マレリの従業員として、どこにしようと、何をしよう、どんな役職に就いてしようと、私たちの日々の行動はマレリの価値観と文化を支持するものでなければなりません。私たちはマレリ行動規範を優先事項の1つとし、コアバリューの原則を日々体現しなければなりません。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 行動規範が必要な理由

行動規範は、最高水準のインテグリティを持って行動し、すべての適用法を遵守し、マレリが事業を営む地域社会の利益を常に考慮することによって、マレリの全従業員が協力して、より強靱な未来を築くことを目指します。これらの目標を達成するために、行動規範はいくつかの行動基準を定めています。

私たちは、正しい業務のあり方を心がけます。日々の中で正しい選択をするために指針が必要となる場合があります。行動規範は、何が正しいかの判断に迷ったときにその手がかりとなることを目的としています。職場環境は、私たちが暮らす世界と同じように絶えず変化しています。日々、成長し、変化しており、新たな課題が生まれています。行動規範は、どの道を選ぶべきか迷ったときの指針となります。そして私たちの企業としての姿を反映する貴重なリソースです。マレリは、国連 (UN) グローバル・コンパクト (マレリも署名しています)、国連ビジネスと人権に関する指導原

則、グローバル自動車サステナビリティ指導原則 (Global Automotive Sustainability Guiding Principles) などの基準に沿って、行動規範を制定しています。



マレリは、社内ルールや適用法令等を遵守するため、従業員に期待する行為や行動についてさらに詳しく規定することを目的としたポリシーアンドプロシージャーを持続的に維持していくことを推進します。行動規範は、株式会社マレリホールディングスの取締役会によって承認され、社内外のステークホルダーとのビジネス関係においてすべてのマレリの関連会社およびマレリの全世界の従業員 (取締役、役員、フルタイムの従業員、パートタイムの従業員、契約社員、その他の臨時従業員) に適用されます。

行動規範は私たちの行動への期待をまとめており、マレリは全従業員が行動規範を読み、理解し、遵守することを求めています。私たち全員が行動規範に従うことで、マレリを特別なものになっている文化を維持できるだけでなく、より確固たるものにすることができます。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 私たちの責任

マレリは、パートナー企業、お客様、サプライヤー、契約相手方を含むすべての人が、倫理的に透明性を持って働き、マレリの行動規範およびマレリのビジネスと自動車業界に適用されるすべての法規制に従って、自らの行動に責任を持つことを期待しています。

チームの一員として、私たちは互いに助け合いながら、マレリの原動力となる文化と価値観を守っていきます。

すべての従業員は、行動規範に定められた要求事項を理解することが期待されています。業務に関連する意思決定を行ったり、行動を起こしたりする前に、マレリの価値観と行動規範に精通してください。

自分の役割を果たすとは何を意味するのでしょうか？  
私たち全員が以下のことに責任を持つことです。

- ルールを理解する。
- 倫理的に行動する。
- 質問し、懸念を提起し、アイデアを共有する。
- コンプライアンスプログラムに参加し、マレリのポリシーアンドプロシージャーを理解する。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 管理職の責任

管理職の皆さんは、権限がある立場にあり、倫理的な模範となることが期待されています。マレリのコアバリューを体現し、倫理的な企業文化を醸成することが管理職としての仕事です。一貫してマレリの高い倫理基準を守り、不適切な行動を取っているかのような外観すら避けなければなりません。また、自分の決定と行動に対して、自分自身に対しても他人に対しても責任を持つ必要があります。各従業員に行動規範を読むよう促し、各自の責任を理解できるよう手助けしましょう。従業員が質問またはコメントがあるときに気軽に声を上げることができる「オープンドア・ポリシー」の文化を確立しましょう。チームメンバーの話を聞き、指導を与える際には、偏見や批判を排除しましょう。チームメンバーと倫理的な問題について話し合う時間を作り、彼らがジレンマに直面したときには正しい決定を下す手助けをしましょう。

管理職である皆さんは、自分の業務に関連する法規制を知り、遵守する責任を負いますが、理解できていない法規制がある場合、または自分に適用さ

れるかどうか分からない場合、法務・コンプライアンス部に連絡して支援を求めてください。

## スピークアップ・カルチャー

私たちが行うことの全ての原動力は、期待を超えた良いビジネスを行うという揺るぎない目標に基づいています。従業員が毎日、安全かつ健全な環境で働くことができる安心感をもって出勤できなければ、この目標を達成することはできません。

従業員の安全は、私たちが決して妥協してはならない根本的なコミットメントであり、従業員、訪問者、契約相手方、第三者を含め、世界中のマレリの拠点にいるすべての人の責任です。もし、行動規範、業界関連の法規制、社内ポリシー、または所定のベストプラクティスの不遵守または違反に関連する懸念がある場合には、声を上げてください（「スピークアップ」）。

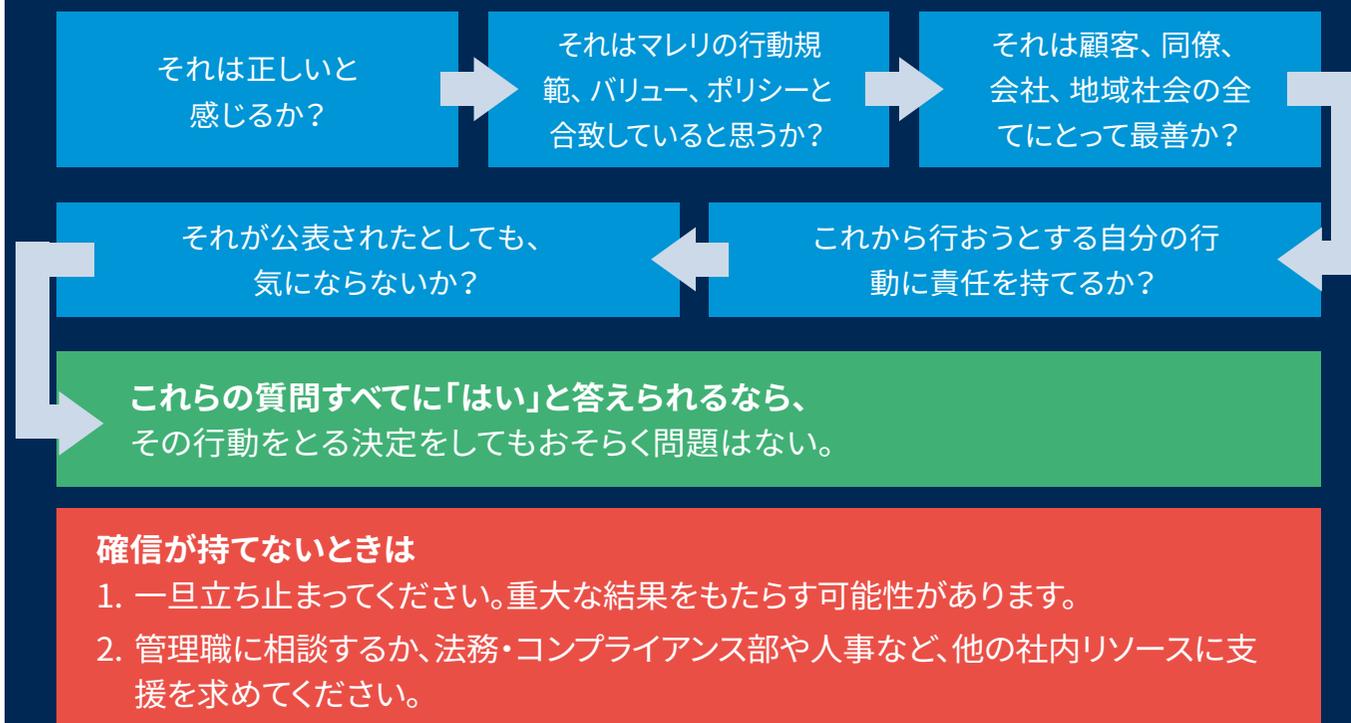
マレリは、誠意を持って懸念を提起した人に対する報復を決して容認しません。

私たちは、職場の倫理、人権、安全衛生の問題、情報セキュリティ、職場における不正な行動、環境とサステナビリティの問題、その他の違法行為について自由にスピークアップすることができ、行動規範およびマレリのポリシーのいかなる部分もこれらの権利を制限するものと解釈されてはならないものとします。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

私たちは、何が正しい選択かが明確ではない困難な状況に直面することもあります。そういった場合にこそ、インテグリティを持って困難に打ち勝つための姿勢が最も重要になります。

倫理的なジレンマに直面し、どうするべきか迷ったときには、以下の順序で物事を考えてみてください。



## 報復を許容しない

報復を受けた場合、または他の人が報復を受けていると感じた場合、このセクションに記載されている社内チャネルのいずれかを通じて報告してください。

マレリはその問題を調査し、是正措置を実施します。

報復を行った者には、解雇を含む懲戒処分が課されます。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

懸念はどのように報告すれば良いのでしょうか？スピークアップの方法は多くあります。

**1. それが適切だと感じる場合には、その懸念を管理職と共有する。**

管理職が指導し、質問に回答できる場合があります。

**2. 他の社内リソースに報告する。**

自身の管理職に状況を相談しにくい場合、別の管理職に相談したり、他のリソース (HRBP、法務・コンプライアンス部、または内部監査部) に相談したりすることもできます。臨時雇用者 (派遣労働者、契約相手方、サービス提供者を含む) の方々は、貴社の担当者を通じてマレリの人事に懸念を提起することもできます。

**3. マレリ・インテグリティ・ホットラインを使う。**

インテグリティ・ホットラインはいかなる懸念も提起できる方法の一つです。法律で許容されている場合、匿名で懸念を報告できます。マレリは、受け取った情報の情報源を開示しないよう注意を払い、情報の機密性を保持します。提起されたいかなる懸念も真摯に受け止め、調査し、適切に対処します。

懸念の提起は、インテグリティ・ホットライン [www.marelli.ethicspoint.com](http://www.marelli.ethicspoint.com) にアクセスするか、または以下のQRコードをスキャンすることでスマートフォンでも可能です。



利用可能なリソースおよび匿名での報告オプションの詳細については、[マレリ・インテグリティ・ホットライン・プロシージャ](#) を参照してください。行動規範について質問がある場合、特定のトピックまたは問題について助言が必要な場合、あるいは懸念の報告方法について疑問がある場合、法務・コンプライアンス部がいつでもサポートします。 [compliance@marelli.com](mailto:compliance@marelli.com) までご連絡ください。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 02 個人の責任

### 親切心と敬意を忘れない

マレリを特徴付ける行動は親切心と敬意であり、これが、各従業員が尊厳を持って扱われる健全かつ協力的な職場をつくれます。マレリでは、役割、役職、年功、雇用形態、勤続年数にかかわらず、マレリへの帰属意識と誇りを感じられるように、誰もが評価され、尊重され、公平に扱われていると感じられるようにするものとします。それが対面であろうとオンラインであろうと、業務や業務に関連するあらゆる場面で、親切心、敬意、礼儀を持ってコミュニケーションを取ることを常に意識してください。親切心と敬意によって醸成される文化は、より付加価値の高いビジネスの成果と私たち全員のより良い生活の質を生み出します。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 倫理的に行動する： インテグリティ

マレリは、事業を営む国で適用されるすべての法規制を遵守し、すべての従業員は適用される法規制、会社のポリシー、およびマレリの業務に関連する手順を熟知する責任があります。

従業員は、行動規範と会社のポリシーの文言だけでなくその精神も遵守しなければなりません。社内での役職に関係なく、従業員は行動規範や適用される法律に違反したり、他の従業員による違反を指示、承認、容認したりしてはなりません。行動規範の違反が判明した場合やその疑いがある場合、決してそれを容認してはなりません。法律または行動規範の違反が会社の業務の遂行に必要であるという言い訳は許容されません。

皆さんがリーダーとしての役職に就いている場合、ロールモデル(模範)となるよう行動し、会社のインテグリティに関する原則、ポリシー、法律の遵守を徹底する必要があります。

### やるべきこと・してはならないこと



会社の資金や資産の着服・横領・窃盗、経費の不正使用など、個人的利益のために役職や職務を利用する不正行為を行ってはなりません。



法律または会社のポリシーに違反したり、他の人にその違反を求めたりしてはなりません。



行動規範、コンプライアンスポリシー、または適用法の違反が判明した場合、または違反が疑われる場合、速やかに報告してください。



インテグリティに関する懸念を報告した他の従業員に報復を行ってはなりません。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンを尊重する

ダイバーシティはマレリの強みの1つです。マレリは、どのような人であろうと、マレリで働くことにその才能を発揮する中で個性を尊重され、平等に扱われていると感じられる文化を醸成しています。

マレリは、生い立ち、学歴、人種、肌の色、民族、国籍、性的指向、性自認、配偶関係、宗教、年齢、障害、文化的背景、兵役経験など、各個人がマレリにもたらす特徴を尊重します。マレリでは、一人ひとりが各自の役割と責任においてプロフェッショナルとして成長できると信じており、そのための平等な機会が与えられ、マレリと社会にさらに貢献できることを期待しています。さらに、ダイバーシティとインクルージョンによって醸成された企業文化は、より多様化する顧客基盤のニーズと期待によりよく対応する上で役立ち、グローバル化が進む環境においてマレリの競争力を高めます。

マレリは、

- 世界中から優秀な人材を発掘し、育成します。
- 従業員の多様な特徴と属性を活用します。



## お互いを尊重する職場を維持する

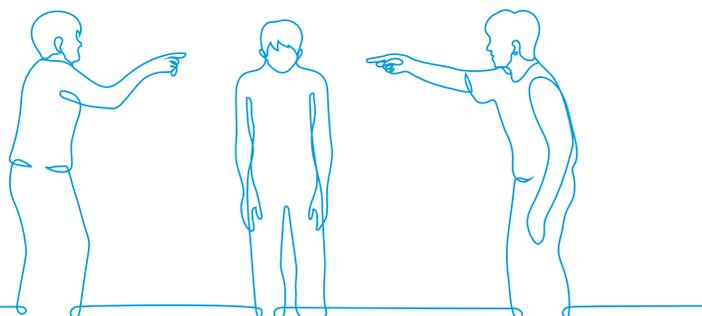
マレリは、従業員一人ひとりが敬意を持ってお互いを公正に扱うことを求めています。健全でインクルーシブな職場環境の維持は、会社とその管理職だけの責任ではなく、社内のすべての人の責任です。各自が帰属意識と誇りを感じる企業文化を確立するには、全員が同僚、臨時雇用者、サプライヤー、お客様に対して適切に振る舞う必要があります。

私たちは、各自が能力を最大限に発揮できる環境を整え、行動規範に沿わない行動を防止するために行動する必要があります。

お互いを尊重する文化の確立は、マレリの土台となる不可欠な要素であり、それによってオフィス、工場、在宅のいずれであっても、安全かつ健全な職場環境を維持することができます。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 差別、ハラスメント、いじめを容認しない



マレリは、マレリの価値観に相反するため、差別、ハラスメント、いじめを容認しません。私たちは、創造的、多様でインクルーシブ、かつ協力的な職場環境の維持にコミットしており、これは従業員だけでなく、マレリとビジネス、サービス、または業務に関係がある従業員以外の方々にも適用されます。

管理職はこのような職場文化を維持する上で重要な役割を担っています。管理職は、いかなるハラスメント、差別、いじめも決して容認されない健全かつインクルーシブな職場環境を維持しなければなりません。

差別またはハラスメントを受けたと思われる場合、またはそのような行為を目撃した場合、ライン管理職や組織内の他の管理職、人事、法務・コンプライアンス部、またはマレリ・インテグリティ・ホットラインなど、自分にとって最も使いやすい方法で懸念を提起することが奨励されます。

いかなる差別、ハラスメント、いじめ、報復も存在しない職場を作るためのマレリの取り組みを説明しているマレリの[人権ポリシー](#)を参照してください。

## 職場での脅迫と暴力への対処



マレリはいかなる職場での暴力も容認しません。職場での暴力は、従業員の離職率の上昇、会社の評判の悪化、そして最も重要な従業員の健康と安全への悪影響など、直接的および間接的にさまざまな形でマレリのビジネスに影響を与える可能性があります。

職場で加害行為または暴力を受けた場合、恥ずかしがったり恐れたりすることなくスピークアップしてください。そのような経験を共有することが、同僚や会社を助け、ひいては守ることにもなります。このような報告があった場合、会社は被害者を保護し、事件に真摯に対処するために早急に対策を講じます。マレリでは職場での脅迫や暴力を一切許容せず、誠実にこのような行為を報告した従業員に対する報復を決して容認しません。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	<b>03 私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 03 私たちの会社を守る

### 従業員の健康と安全を最優先する

マレリは、従業員、サプライヤーおよびビジネスパートナーの従業員、マレリの拠点を訪れる人の健康と安全を優先します。マレリは従業員を大切に、従業員の健康とウェルビーイングを守るために最善を尽くしています。また、安全な環境を提供するため、安全衛生に関する法規制、国際基準、社内ポリシーを遵守します。

マレリは、危険な環境要因を最小限に抑え、排除するため、会社のポリシーにすべての従業員が積極的に関与することによって安全な職場環境の確立に寄与する文化を醸成します。

マレリは、自然災害、火災、疫病などの外部リスク要因が発生した場合に事業継続性を維持するための緊急対応手順を確立し、管理します。

マレリは、潜在的な職場の危険をすべて特定し、是正するよう努めますが、危険やリスクを知らせていただく皆さんからの協力も必要です。職場の健康や安全に関する問題、懸念、事故、業務に関連する負傷や病気を発見したら、直ちに報告してください。[マレリ環境安全衛生全社ポリシー](#)を参照してください。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 人権を尊重して推進する

国連ビジネスと人権に関する指導原則に従い、マレリはすべての人の基本的人権を擁護し、労働者に尊厳と敬意を持って接することにコミットしています。

マレリは、疑わしい状況を積極的に監視し、関連するリスクを特定して対処するための合理的なデューデリジェンスを実施することにコミットしていますが、皆さんには職場における疑わしい状況を報告していただく必要もあります。



### マレリは

- 健全な労働環境を提供し、過剰に長い労働時間の禁止、最低賃金の確保、社会福祉を含め、労働条件に関連する法律、ポリシー、基準を遵守します。
- 適用される労働法に従い、結社の自由、団体交渉、集団行動に関する従業員の権利を尊重します。
- 強制労働または奴隷的慣行の禁止、児童労働の禁止、人身売買の禁止に関する法律を遵守し、またサプライヤーにその遵守を求めます。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 <b>私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 個人がすべきこと

- マレリの人権ポリシーを参照して、私たちの行動が共に働く人の人権にどのような影響を与える可能性があるかを理解する。
- 自分が関わるすべての人の基本的人権を尊重し、マレリのサプライヤー、契約相手方、ビジネスパートナーにも同じことを求める。
- 業務中に従業員や他の個人に対する加害行為の可能性を示唆する状態または状況を発見した場合、直ちにスピークアップする。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 <b>私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

### 報告すべき疑わしい第三者の雇用条件の例

- 16歳未満または現地の法定最低就労年齢のいずれか高い方よりも若いと思われる従業員。
- 危険または不衛生な労働条件。
- 十分な安全設備と必要な工具が揃っていない労働環境。
- 職場改善のための従業員の結社、団体交渉、団体行動の自由の拒否（公式・非公式問わず）。
- 職場での加害行為（ハラスメント、いじめ、差別、暴力など）の目に見える兆候。
- 従業員が採用にかかる手数料を支払った後に十分な賃金を支払われていない、あるいは政府発行の身分証明書、パスポート、または労働許可証を取り上げるなどの手段により強制的に働かされている、または雇用を継続されているという噂。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 <b>私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 雇用機会の均等を確保する

マレリは、すべての従業員を受け入れるインクルーシブな職場環境の推進にコミットし、資格・資質、専門性、能力、パフォーマンスに基づいて採用と昇進において公平に扱います。

マレリは、従業員が職務の遂行に必要な能力を向上させるためのすべての活動を積極的にサポートします。

マレリは、適格な応募者または従業員に関する雇用の決定を個人の資格や能力などにも基づいて行い、その決定は年齢、人種、肌の色、性別、宗教、国籍、障害、性的指向、性自認、性表現、地位、または適用法で保護されているその他の特徴に基づいて行われることはありません。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 <b>私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------



## 利益相反の回避

利益相反は、個人の利益が会社の利益と相反する、または相反すると思われる場合に発生します。利益相反は、マレリの評判や金銭的利益を損ね、行為の不適切さや会社への忠誠心の分断の外観を創出し、またはビジネス上の決定の質や意思決定者のインテグリティへの疑問を生んだりする可能性があります。

### やるべきこと・してはならないこと

- 社外のステークホルダーから不適切なビジネス上の利益を求めてはならず、また、私利を図るために直接的または間接的に価値のあるものの提供を申し出たり、それを約束したり、実際に提供したりしてはならない。
- 業務を妨げるようないかなる関係も許容せず、会社の利益を考慮した客観的な判断をする。利益相反は、皆さんや近親者が、現在、過去、または潜在的なステークホルダーとビジネス上の関係、金銭的な関係、または密接な個人的関係を持っている場合に発生する可能性がある。
- ビジネスにおけるすべての決定と行動が会社の正当な利益を反映するようにする。ビジネスにおいて会社の利益と個人の利益が相反する場合、会社の正当な利益を優先しなければならない。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 <b>私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

### 顕在的/潜在的/外見的利益 相反が発生する可能性のある 状況の例

- 社内で家族、親しい友人、または親密な関係にあるパートナーを直接的または間接的に管理監督し、または会社のサプライヤーまたはパートナーとして雇用する。これは禁止されています。
- 従業員が所有する、または従業員の傘下にある企業のサービスを利用する。
- 行政職に就く。



### 利益相反の可能性が懸念される 場合、どうすればよいか？

まず、実際の利益相反や利益相反が疑われる状況を避けてください。

次に、まだ利益相反の可能性について確信が持てない場合、管理職、人事、または法務・コンプライアンス部に状況を伝えるのが最善です。また、インテグリティ・ホットラインを通じて報告することもできます。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 <b>私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## ソーシャルメディア上で責任を持って交流する

ソーシャルメディアは関係づくりの場として優れており、友人や家族と常に連絡を取り合え、お客様、地域社会、社会全体とコミュニケーションを取ることができます。ソーシャルメディアは、常に適切な判断を下したうえで適切に用いることが重要です。ソーシャルメディア上での発言は、個人としてだけでなく、マレリのイメージにも影響する可能性があります。そのため、サイバーコミュニティ・ウェブサイトにおいて不適切な内容や投稿するべきではない内容が何かを理解してください。マレリに関連する不適切な内容を発見した場合、管理職、人事、またはマレリ・インテグリティ・ホットラインに懸念を提起してください。

マレリから業務目的でのソーシャルメディアサイトへのアクセスを許可されている場合を除き、個人のソーシャルメディアアカウントを業務上のイベント、取り組み、キャンペーンの宣伝に使用してはなりません。



## 許容できない不適切なソーシャルメディアの使用



- 差別的とみなされる可能性のあるコメントや、ハラスメント、いじめ、または加害行為に該当する可能性があるコメント。
- 本人の許可を得ていない、マレリの従業員またはサービス提供者の写真またはビデオ映像の使用。
- 在職中に得た個人情報、機微情報、または秘密情報の不正な開示 (不正な開示は、マレリの懲戒手順に基づき不正行為/重大な不正行為に該当する可能性があります)。
- マレリの評判を傷つける可能性があるコメント、コンテンツ、メディア、または情報の投稿。
- マレリのお客様またはお客様の製品に関する画像または情報の投稿。
- マレリの工場と職場に関する画像または情報の投稿。
- コーポレートコミュニケーションチームの承認を得ていない、マレリを代表した発言。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 <b>私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## マレリ全体に責任あるデータ慣行を浸透させる

マレリは、責任あるデータ慣行を確立することで、信頼できる透明性の高いビジネスの運営と法的義務の遵守を徹底します。マレリの独自の資産によりビジネスが競争上の優位性を得るには、マレリのデータの責任ある透明性の高い管理が必須です。そのためには、適切に定義されたデータ慣行の確立と優れたデータ活用の文化の構築が不可欠です。

マレリは、マレリのネットワーク、システム、デバイス、製品、プロセス、サービス、技術（製品情報リソース）、およびそれらに含まれる広範な機密情報の保護にコミットしています。マレリは、マレリの専有情報の保護とセキュリティおよびデータ運用の維持に関する適用法に従って、業務上



の義務を遵守するため、情報リソースを監視しています。また、マレリに代わってマレリの専有情報を処理する第三者に、マレリの基準と一致する情報セキュリティ管理を実施することを求めており、マレリはこれらの管理を定期的に評価しています。データの収集、使用、共有について

は、[情報セキュリティポリシー](#)を参照してください。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	<b>03 私たちの会社を守る</b>	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## AI開発において責任を持つ

人工知能（AI）は、社会の未来にとって重要な技術です。AI技術の発展によってかつてない機会が得られ、AIの潜在的な影響は広範囲に及びます。技術が急速に進化し続ける中、マレリは倫理的にAIを使用するよう最新の注意を払う必要があります。AIの開発は人間中心であり、社会にとって有益でなければならないということを忘れてはなりません。つまり、AIは人間と社会が望む目標をサポートし、人間の能力を高めるように設計されるべきなのです。AI技術の利用に対する信頼を築くには、AIがどのように、どのような目的で、誰によって利用されるのかについて十分に理解する必要があります。AIが人々のニーズに応え、欲求を満たすためには、膨大なデータが必要です。だからこそ、AI技術は透明性を持って実践されなければならず、それによってデータが安全であり、悪用されないようにしなければなりません。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

## 04 ビジネスインテグリティ



### 腐敗と贈収賄を防止する

私たちは、事業活動が社会に及ぼす影響に注意を払っています。マレリは最高水準のインテグリティを持ってビジネスを行い、すべての腐敗防止法および贈収賄防止法を遵守します。マレリは、私たちのビジネス取引に関連する腐敗を容認しません。

腐敗にはさまざまな形態を取る可能性がありますが、最も多いのは賄賂です。賄賂とは、ビジネスを獲得または維持すること、不適切な優位性を確保すること、またはビジネス上の決定に影響

を与えることを目的として、現金、ギフトカードなどの現金等価物、贈答品、食事、旅行、接待などの何らかの価値ある物を誰かに提供することを指します。

マレリは、公務員であれ、お客様やサプライヤーなどの民間人であれ、いかなる個人とも賄賂の授受を行いません。

### マレリで厳格に禁止されているその他の種類の賄賂

- キックバック – キックバックとは、第三者に何か（情報、割引、何かしらの便宜など）を提供する見返りとして、金銭または何らかの価値ある物の提供を受けることです。
- 円滑化のための公務員への少額の支払い – これは一般的に、裁量の余地がない日常的な政府行為の遂行を促進または迅速化するために利用されます。この支払いは、それが法的に許されている国/地域であっても、マレリでは禁止されています。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

稀に例外が認められる場合がありますが、それは健康または安全に対する差し迫った脅威がある状況に限られます。そのような状況がある場合、直ちにマレリの法務・コンプライアンス部に報告しなければなりません。

私たちには、第三者との倫理的関係を維持する責任があります。そのため、私たちは共にビジネスを行う第三者についてデューデリジェンスを実施し、公正に扱わなければならない、決してビジネス上の利益を得るために提供されたとみなされる可能性があるものの第三者へ提供し、あるいは第三者と交換をしてはなりません。

質問や懸念があれば、**スピークアップ**してください。違法または非倫理的である可能性がある行為に関連する警告的な前兆を決して見過ごさないでください。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------



## 犯罪関係の防止と排除

マレリは、犯罪組織や犯罪行為に関与せず、また従業員による関与を容認しません。私たちは、企業としても、個人としても、犯罪行為に関与する者（個人、企業など）と業務上または取引上の関係を一切持たず、犯罪行為のための資金を提供したり、犯罪行為を助長したりしません。犯罪は結局何の利益も生まず、実際にはすべてのマレリの人を傷つけます。そのため、マレリはゼロトレランスにコミットしており、犯罪行為に関与する者に対していかなる例外も認めません。マレリは、インテグリティを重視し、違法行為や非倫理的行為の可能性を削減する意思決定を支援する従業員（管理職含む）を採用し、大切にします。この問題の重要性を考慮し、マレリは、従業員に対し、懸念があれば直ちに警告を促し、法務・コンプライアンス部またはインテグリティ・ホットラインに懸念を提起することを求めています。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

## 贈答品と接待の授受

マレリは、ビジネス上の礼儀を交わす際、健全な判断力と節度を示すよう努めます。贈答品や接待の授受は、マレリとビジネスパートナーの間における強固な協力関係と友好の構築につながる可能性があります。

しかし、高価すぎる、または透明性や正当な目的を欠く贈答品、食事、接待は、賄賂とみなされたり、単に不適切とみなされたりする可能性があります。

これらは信頼を損ね、マレリのビジネスに悪影響を与えます。マレリは、腐敗と贈収賄のないビジネス関係を構築しなければなりません。贈答品と接待は必ず、適用される現地の法律とマレリ贈答品・接待プロシージャーに従う必要があります。

## 贈答品と接待に対してどのように責任を持てるか



- 贈答品または接待の授受にあたっては、それが合法的であり、マレリのポリシーを遵守しており、正当なビジネス上の目的を持っており、その価値が適切であることを確認しなければなりません。
- 第三者からの贈答品または接待の提供を求めたり、第三者にマレリとビジネスを行うためには何かを提供する必要があると感じさせたりしてはなりません。
- お客様、代理人、またはサプライヤーに対し、私たちに代わって贈答品または接待を提供するよう求めてはなりません。
- 現金またはギフトカードなどの現金等価物の授受を行ってはなりません。
- 以下のようないわゆる「新聞報道のテスト」に合格しない可能性がある贈答品または接待の授受を避けるよう注意しなければなりません。  
*翌日、地元の新聞で報道され、家族、友人、近隣の人たちが読んだらあなたはどのように感じるかを想像してみる。報道されても問題ないと感じるか？それとも、恥ずかしく感じるか？あなたの決定や行動がこのテストに合格すればOKだが、合格しなければNG。*
- 入札に関与する者または公務員と取引する際は、特に注意を払わなければなりません。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 政府や政治的実体を持つ機関に対して責任を持って対応する



政府の要請への対応: マレリは、政府当局または政府機関からの正当な要請（訴訟含む）に対して適切に対応します。マレリは訴訟ホールド通知があった場合であれ、文書管理規程に従う場合であれ、誠実に偽るところのない情報を提供するものとし、要請や命令に関連する情報を隠蔽または破棄することはありません。

**ロビー活動:** マレリと政府間のやり取りは、一般的にロビー活動に関する法規制によって規制されています。ロビー活動とは、法律、規制、政策、規則に影響を与えようとするあらゆる活動を指しますが、特定の法域においては営業活動と事業開発活動も含まれる可能性があります。これらの法令は、公選された役職者だけでなく、任命職公務員や政府職員にも適用されます。

マレリには、適用法に基づき、従業員および政府関係に関する外部のコンサルタントやアドバイザーによる活動を含め、マレリのロビー活動を登録および/または報告する義務がある場合があります。マレリは、どのような場合に第三者の活動がロビー活動とみなされるかを知る責任があり、マレリのチーフ・リーガル・オフィサー（CLO）に相談して指示を仰ぐ必要があります。

**政治献金:** マレリは、政治献金に関する法律を遵守する義務を真剣に受け止めます。これらの法律は法域や国によって大きく異なります。マレリが政治献金（政治家候補、政党、政治運動、および関連イベントへの出席、参加、および/または後援を含む）を行う場合、事前にマレリのチーフ・リーガル・

オフィサー（CLO）の承認を得なければなりません。また、多くの場合、企業は政治運動への献金を禁止されています。

選挙関連法によっては、企業のリソース（機器、メール、文房具、人材など）の利用も企業による寄付と解釈されます。政治運動や資金調達のためにマレリのリソースを使用する前に、マレリのチーフ・リーガル・オフィサー（CLO）の承認を得てください。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## インテグリティを持つサプライヤーを選ぶ

マレリの成功にとってサプライヤーとの関係は極めて重要です。マレリがその使命を達成するには、マレリがお客様との信頼構築のためのするコミットメントと同様のコミットメントをして素晴らしい仕事をするとともに法律を遵守するサプライヤーが必要です。いずれのサプライヤーも、マレリとのビジネスを行うに先立ち、マレリのデューデリジェンスを受ける必要があります。

購買免除の対象となる場合を除き、サプライヤーとの契約の締結をコミットする権限を持っているのは購買チームのみです。

マレリはサプライヤーに高い基準を求めています。マレリは、サプライヤーに対し、マレリのサプライヤー行動規範に沿った行動を求めます。



## どうすればデューデリジェンスを実施し、インテグリティを持つサプライヤーを選べるのか

- 求める業務に最適なサプライヤーを選び、好みではなく、その実績、インテグリティに関する評判、その他のメリットを慎重に検討する。
- サプライチェーンにおける児童労働、人身売買、その他の労働の搾取を防止および排除するため、サプライヤーと協力する。
- 犯罪組織またはその構成員（組織犯罪者、総会屋など）との関係および/または取引を防止し排除する。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

## 第三者と責任を持って協働する

マレリは、マレリの高い基準を満たし、マレリに好ましい影響を与えるように行動する組織とビジネスをしたいと考えています。マレリは、デューデリジェンスを通じて慎重に第三者を選び、第三者が契約上の要件を満たし、すべての適用法、行動規範、およびマレリのポリシーに従うよう適切な措置を講じます。

意思決定を行う際、それによってパートナー企業およびお客様との長期的な協力関係がより強固になるかどうかを考えましょう。マレリは自らに高い倫理基準を課しており、マレリの「代理人」（サプライヤー、パートナー企業、ベンダー、コンサルタント、およびマレリに代わって業務を行うその他の企業等を総称します）にも、マレリ自身に課した基準を満たすことを求めます。マレリがその代理人から信頼を得るのは、代理人に価値を還元しつつもマレリが自らは行わないであろうこと決して代理人にさせたりはしない場合なのです。

### 信頼できる代理人を利用する方法

- マレリの代理人としての業務を依頼する前に、代理人の資格・能力を把握する。
- 契約や取引にその代理人を関与させる理由を理解し、適切な場合にのみ関与させる。
- 代理人との信頼を築き、法律やマレリのポリシーで許可されていないことをマレリに代わって行うことを求めたり提案したりしない。
- お客様またはパートナー企業が望まない、または必要としない製品またはサービスを発注するようプレッシャーをかけてはならず、それを拒否した場合にいかなる報復もしない。

代理人がマレリの代理を務めている間、不正行為または非倫理的行為に関与している可能性を示す兆候があれば、報告しましょう。

マレリは、マレリに代わって業務を行うにあたって、倫理的にビジネスを行うことにコミットする誠実で責任感のある代理人と仕事をしよう努めています。マレリのビジネスは、代理人（サプライヤー、パートナー企業、ベンダー、コンサルタントなど）の大規模なネットワークに依拠しています。代理人の行動は、私たち自身の行動と同様に、マレリの評判に

影響します。マレリのために行動するこうした代理人がインテグリティを持ってビジネスを行えば、マレリはお客様、投資家、その他の主要なステークホルダーとの間に築いた信頼を維持し、強化できます。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 公正に競争する

マレリは、自由競争に基づく事業を保護および支援するすべての競争法および独占禁止法を遵守します。マレリは、自由競争は、消費者がより安い価格、より多くの選択肢、より良い製品とサービスから恩恵を受けることができる、活気溢れる市場につながると信じています。

マレリは、競争において不正はしません。

どのように競争するかは、結果を出すことと同じくらい重要です。健全な競争と公正な商慣行は、適正な価格でさまざまな製品とサービスを提供することでお客様を最優先します。公正な競争によって、インテグリティを損なわずにマレリのビジネス目標を達成できます。

競合他社から禁止事項について接触を受けた場合、絶対に同意しないことという意志を明確に示し、機密情報を求めないようにしましょう。その人物との連絡を直ちに中止し、できる限り早く法務・コンプライアンス部に報告してください。

### 公正に競争する方法

- 競合他社と合意を取り付けたり、協定を結んだりせず、競合他社から独立してビジネス上の意思決定を行う。
- 競争入札プロセスを尊重する。結果を不正に操作したり、設定したりしてはならず、他の者によるそのような行為を助長してはならない。
- マレリの製品またはサービスの価格をどう設定するか、あるいは機会、市場、または地域を追求するかどうかについて、競合他社と示し合せてはなりません。
- 競合他社と示し合せて以下の行為を行ってなりません。
  - 市場に出すサービスまたは製品の量（または数量）を制限する
  - 生産を制限する
  - 特定の製品の販売を中止する
  - 作業時間を制限する
- 競合他社と機密情報を共有したり、競合他社から機密情報を受け取ったり、以前の雇用主を含む他者の機密情報を不正使用したりしてはなりません。
- 競合他社と示し合せて、ある企業からの購入を拒否したり、特定の企業と特定の条件で取引したりしてはなりません。
- 競合情報を収集するにあたっては、適切なリソースのみを使用し、誠実さを保ち、自身の身元を偽らないようにする。
- 公正なビジネス、広告、競争に関するマレリの高いインテグリティの基準を遵守する。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------



## 世界の貿易法を遵守する

マレリは、世界のすべての輸出入および制裁に関する法律を遵守します。

マレリは多くの国と文化、そして数十もの言語で、人々とビジネスを展開しています。マレリはさまざまな国の間で製品を移動します。マレリには、世界中にお客様、サプライヤー、パートナー企業、子会社、従業員がいます。そのため、マレリの義務は、私たちがどこにしようと、適用される関税、貿易、および制裁に関する法規制（反ボイコット法含む）を遵守することです。

[輸出入法・反ボイコット法遵守ポリシー](#)を参照してください。

## インテグリティを持って取引を行う方法

- 製品、ソフトウェア、サービス、および技術の輸出入または再輸出入に適用されるすべての国際貿易法および反ボイコット法を遵守する。
- 適用される制裁や貿易制限に違反しないよう、個人、企業、国を適切に見極める。
- 不適切な輸入または輸出が行われていると思われる場合、法務・コンプライアンス部に懸念を提起する。
- 制裁または禁輸措置を受けている国や当事者とは関わらない。

**世界の貿易法規制を遵守することで、マレリの国際的なビジネスを遂行する能力を維持できます。この遵守を怠ると、以下の結果を招く可能性があります。**

- マレリに対する罰則
- サプライチェーンの深刻な混乱
- 販売とサービスの機会の喪失
- 従業員とその管理監督者（経営層を含む）に対する金銭的罰則、罰金、懲役。
- 貿易特権の取り消し。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## プライバシーを尊重する

マレリは、お客様、サプライヤー、従業員のすべての個人データの取り扱いについて透明性を確保することでプライバシーを尊重します。マレリは、そのプライバシーの保護について信頼を得たいと考えています。

## 内部情報に基づいて取引しない

マレリは、インサイダー取引や他者への内部情報の提供には関与しません。これは何を意味するのでしょうか？第一に、マレリ内外の人々との信頼関係を維持するため、私たちは適用されるすべての

証券取引法を遵守します。つまり、重要な非公開情報を保有している間、上場企業の株式を取引しません。業務上、私たちはマレリまたは共にビジネスを行う企業に関する重要な非公開情報を知ることがあります。合理的な投資家が企業の有価証券の売買を決定する際に重要であると考えられる情報は、「重要」な情報とみなされます。一般投資家に広く公開されていない情報は、「非公開」情報とみなされます。好ましい情報も好ましくない情報も、重要な非公開情報とみなされる可能性があります。

第二に、この情報に基づく企業の有価証券または株式の取引は、マレリ内外の人々（投資家および/または公衆）との信頼関係を壊すだけでなく、違法であり、マレリのポリシーに違反します。

第三に、私たちは非公開情報に基づき、他人に有価証券の売買を指示せず、「来週の第3四半期決算は素晴らしい」といったことを詳細情報の形式で、または一般的なコメントとして「ヒント」を提供しません。



### プライバシーを尊重する方法

- 国内外のプライバシーおよびデータ保護に関する法律を遵守する。
- お客様、サプライヤー、または従業員の個人データを収集または処理する際、明確かつ正確なプライバシー通知を行う。
- お客様、サプライヤー、または従業員が同意した内容に沿って、個人データを適切に使用し、プライバシーに関する彼らの選択を尊重する。
- 安全な製品、プラットフォーム、およびサービスの使用および/または設計を通じて、お客様、サプライヤー、および従業員の個人データを保護する。
- マレリの従業員によるお客様、サプライヤー、または従業員の個人データへのアクセスまたは処理は、正当な業務目的に必要なものに限定する。
- 個人データは、適用される記録保持スケジュールに従って、必要な期間のみ保存する。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

最後に、インサイダー情報に基づいて取引を行った場合、またはインサイダー情報を他人に提供した場合、個人として民事上および刑事上の罰金が課される可能性があり、さらに実刑判決を受ける可能性もあることを理解してください。[インサイダー取引ポリシー](#)を参照してください。

## 正確な記録と取引を維持する

マレリの記録は、明確、正確、かつ完全な状態を維持するものとします。正確な記録には、財務報告書、お客様の請求書、技術情報、製品情報、経費報告書、労働時間などが含まれます。

### これを行う理由

- 正確な記録の維持は、信頼を維持し、適切なビジネス上の決定を下す上で極めて重要です。
- ビジネスの脆弱な領域における正確な記録の維持は、マレリとステークホルダーを腐敗から保護することにつながります。正確な帳簿は、マネーロンダリングの特定と防止に役立ちます。

### 方法

- 取引の勘定科目や会計期間を誤って分類したり、取引の性質を偽ったりしない。
- すべての商取引について適切な承認を得て、必要なすべての証憑を提出する。マレリは、すべての資産、負債、収益、経費、商取引を、完全かつ正確に、適切な期間で、適時記録します。
- 秘密の、あるいは記録されていない現金資金、その他の資産、負債を設定または維持しない。
- 記録を作成する際、慎重に考えた適切かつ正確な表現を使用する。
- マレリの文書管理に関する慣行および適用法に従って、マレリの記録を保管および破棄する。
- 調査の対象となる、または後に公的な手続きで使用される可能性のある文書や記録を隠蔽したり破棄したりしない。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## マネーロンダリング防止のための コミットメント

マネーロンダリングは、犯罪者、テロリストなどが違法行為で得た資金を合法的なビジネスを通じて移動することで合法的な資金に見せかけるプロセスです。

私たちは、お客様、サプライヤー、第三者と業務を行う際、特に取引が現金の支払いを伴う際には、適切な判断を下し、細心の注意を払います。私たちは、すべての取引の背後に誰がいるのかを把握しなければならず、正当な事業活動に従事する信頼できる第三者以外と取引を行ってはいけません。

私たちは、マネーロンダリングの目的のために私たちの活動が利用されないようにため、疑わしい行動をマレリの法務・コンプライアンス部に報告します。



## 潜在的なマネーロンダリングとその他の犯罪の兆候に対して 常に警戒する方法

- 悪人がマネーロンダリングやその他の違法行為に関与するために決済プラットフォームを利用することを防止するべく策定されたマレリの慣行と内部統制を理解し、遵守する。
- 疑わしい支払いに注意し、直ちに法務・コンプライアンス部または内部監査部に直接、あるいはマレリ・インテグリティ・ホットラインを通じて報告してください。
- 責任を持ってお客様やサプライヤーの身元を確認する。—「お客様/サプライヤーを知る」— 行うことで、誰が支払いを要求しているのかを把握し、確認できるようになります。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 情報セキュリティに注意する

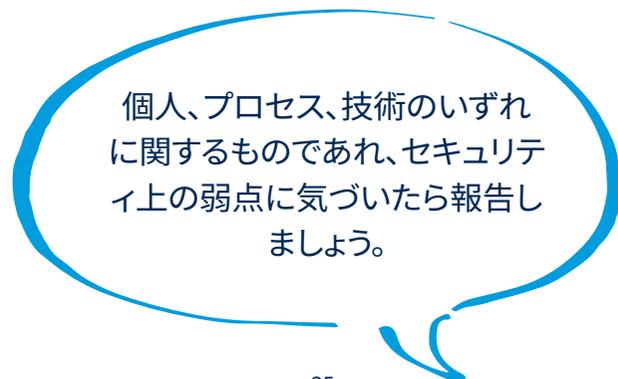
情報セキュリティは、マレリのインテグリティと評判にとって重要な要素の1つです。そのため、すべての従業員、契約相手方、パートナーは、マレリの強固なInformation Security Policyを遵守し、マレリのデータ資産の機密性、完全性、可用性を確保することが期待されます。

すべての従業員は、その役職や役割に関係なく、業務の各側面において最高水準の情報セキュリティを組み込み、維持することが求められます。このコミットメントは、日常のルーティンワークから複雑なプロジェクト遂行に至るまで多岐にわたり、データ保護とサイバーセキュリティ対策が確実に一貫して適用され、遵守されるようにします。

マレリはデジタルシステムのセキュリティを維持します。重要なシステムと機密情報をデジタル攻撃から守るため、エンドツーエンド・サイバーセキュリティ対策を確立しています。

ベストプラクティスと、自動化、デジタル化、高度な分析、人工知能、機械学習などの最新の主要技術によって管理された包括的なサイバーセキュリティ戦略は、攻撃に対する効率的な防止、検出、対応により適切な情報セキュリティを確保するために必要な前提条件です。

マレリ情報セキュリティポリシーには、公共の場での業務や出張中 / リモートでの業務時を含め、マレリのサイバーセキュリティに関する期待と要求事項について非常に重要な情報を定められています。マレリの従業員は、すべてのセキュリティポリシーを確認し、理解し、遵守しなければなりません。



## 情報セキュリティに注意する方法

- デバイスだけでなく、データと情報も保護することで、情報セキュリティリスクを低減する。
- 特定の行動がリスクにつながるかどうか分からない場合、作業を進める前にデジタル部門に指示を求める。
- 適切な判断：データと情報を適切に分類し、マークする。
- マレリの技術のセキュリティを侵害するソフトウェアのインストールや設定の変更はしない。
- マレリのセキュリティポリシーに沿い、適切に技術を活用する。
- セキュリティ侵害またはインシデント（ソーシャルエンジニアリング、フィッシングメールなど含む）の疑いがある場合、直ちにデジタル部門に報告する。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

### 会社のリソースのセキュリティを確保する

- 未使用時のデバイスのセキュリティを適切に確保しましょう。
- 強固なパスワードを使用しましょう。パスワードは誰にも教えてはなりません。
- 公共のWi-Fiネットワークや安全でないWi-Fiネットワークへの接続は避けましょう。
- 不明な送信者からのメールのリンクをクリックしたり、添付ファイルを開いたりしてはなりません。
- オンラインで情報を投稿する場合、マレリの企業秘密、専有情報、その他の商業上の機密情報を開示してはなりません。

### 機密情報と知的財産の保護

マレリは、マレリに属するものであれ、第三者に属するものであれ、情報とアイデアのビジネス価値を保護し、尊重します。技術データ、企業秘密、ビジネス戦略、お客様の詳細、一般公開されておらずマレリに競争上の優位性をもたらすその他の情報などのマレリの機密情報が開示された場合、マレリは競争上の優位性を失う可能性があります。共にビジネスを行う企業からマレリが知り得た機密情報を開示すれば、マレリは信頼を失います。マレリのものであれ、他者のものであれ、情報とアイデアの保護は、ビジネスの成功において極めて重要であり、信頼できるビジネスパートナーとしてのマレリの評判の基礎となるものです。商標、ロゴ、特許、企業秘密、著作権はすべて、知的財産 (IP) に該当します。

マレリとマレリのサプライチェーンは、模倣品および/または流用された部品や材料が納入する製品に混入するリスクを最小限に抑え、製品設計プロセスにおいて関連する技術規制を遵守します。

第三者による不正な開示や侵害を含むあらゆる問題を速やかに特定し、法務・コンプライアンス部に報告しましょう。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

## 機密情報とIPを保護する方法

- マレリの[情報分類ポリシー](#)に従ってすべての物理的および電子的情報に適切な分類を適用し、情報セキュリティポリシーに従って情報を保護する。
- マレリの機密情報の物理的な複写を確保する。
- 第三者の知的財産を違法な手段で取得したり、不正に利用したりしない。
- 適切な守秘義務契約または秘密保持契約を結んでいて、知る必要がある場合を除き、機密情報やIPを開示しない。
- 機密情報へのアクセスを保護するために[情報セキュリティポリシー](#)に定められたガイダンスに従い、その情報について、共有 / 公共スペースで話したり、その情報を知る必要がない同僚と話したりすることを避ける。
- 機密情報をマレリにおける業務以外に使用せず、マレリを退職しても機密を保持する。
- マレリのイノベーションの価値を保護する適切な形式の知的財産を通じて、マレリの知的財産権を保護する。
- 他者の守秘義務と知的財産権を尊重し、他者の機密情報と知的財産権を許可なく使用しない。
- 第三者の著作物を、適切な著作権者からライセンスまたは許諾を得ることなく使用または複写しない。
- マレリでの業務の一環として創出された新規の発明は、法務・コンプライアンス部に適時開示する。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	<b>04 ビジネスインテグリティ</b>	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	---------------------------	-----------------------	----------------------

## マレリの資産を守る

私たちは、責任を持ってマレリの資産を管理します。私たちは日々、会社のリソースとツールを業務に使用します。これらの資産はマレリに帰属しま

す。私たちはマレリとマレリのすべてのステークホルダーに対して、責任を持って、信用を維持し価値を高める形で使用する義務を負います。

### マレリの資産を守る方法

- 正当な業務上の目的のみに資産を使用する。
- 資産を慎重に取り扱い、紛失、盗難、詐欺、悪用を防止する。
- マレリの資金を賢く使用し、無駄な支出と乱用を防止する。
- 業務上の通信とデータには、個人のアカウントやサービスではなく、法人アカウントおよびサービスを使用する。
- ノートパソコンやモバイルデバイスなどの貴重な資産は、物理的にも電子的にも安全に保管する。
- ビジネスに関連するデータはマレリの所有物であり、マレリのポリシーおよび適用法に従ってアクセス、保存、レビューが許されることを理解する。
- マレリから提供された技術資源を使用する際、適切な判断を下すものとし、個人的な理由で使用する場合には、マレリ[情報セキュリティポリシー](#)を遵守しなければならず、業務上の責任の履行を妨げたり、職場環境を損ねたりしてはならない。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への 貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------

## 対外的に正確に情報を伝達する

マレリは、誠実に、誤解を招かないように、公式な声明とコミュニケーションを行います。何をどう伝えるかが重要です。お客様、投資家、ステークホルダー、一般市民からの信頼を獲得し、それを維持するためには、マレリが伝えることが信頼に足るものであると認識してもらう必要があります。マレリのコミュニケーションを焦点が絞られた一貫性のあるものにし、法律違反を防止するため、すべてのメディアおよび業界広報活動はコミュニケーション・広報チームを通じて調整する必要があります。

マレリは、従業員が社会的関心事について公に発言し、雇用条件に関連する協同活動に従事する権利を保障する法律を遵守します。行動規範またはマレリのポリシーのいかなる規定も、皆さんの法的権利を妨害または制限することを意図しておらず、またそう解釈されないものとします。



### 社外に正確に情報を伝達する方法

- マレリ社内およびマレリ社外に提出する報告書と文書においては、完全、正確、かつタイムリーな財務情報開示を行う。
- お客様、投資家、その他のステークホルダーからのフィードバックと質問に注意深く耳を傾ける。
- マレリを代表しての発言は、その権限を与えられている場合を除き、してはならない。メディアからの問い合わせはすべて、マレリのコミュニケーション・広報部に取り次ぐ。
- マレリの製品とサービスに関するあらゆるコミュニケーションは正直かつ正確であることを確認する。
- ソーシャルメディア上でマレリの製品とサービスを推奨する場合、マレリに所属していることを明確にし、推奨する製品やサービスについての正直な意見や信念を述べる。
- マレリの広告および宣伝資料を正確かつ虚偽の主張がないものにする。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-------------------	----------------------

## 05 社会と将来世代への貢献

### 地域社会への参加とコーポレート・シティズンシップ

マレリは、自分たちが生活し、働く地域社会に変化をもたらすことにコミットしています。マレリは地域社会を強化する取り組みを支援し、従業員の参加も奨励しています。

マレリの取り組みは、本社機能の監督の下、責任ある現地経営陣によって導かれます。どの取り組みを支援するかを検討する際、特定の組織や取り組みを支援することが、マレリの他の従業員や地域社会の他の人々に疎外感や不快感を生まないよう注意します。



### 地域社会への関わりを深める方法

- 承認された慈善事業への寄付や献血など、地域社会の活動を支援する。
- 世界中の誰もがインターネット、技術、マレリプラットフォームにアクセスできるようにするための活動に、責任を持って取り組む。
- ボランティアとして地域プロジェクトに参加して支援することで、地域社会に時間と才能を捧げることに誇りを持つ。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	<b>05 社会と将来世代への貢献</b>	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	---------------------------	----------------------

## 環境を保護し、サステナブルな世界を築く

ビジネスと生態系は相互に依存しています。マレリは、天然資源の保護と再生に貢献することを目指しています。イノベーションの推進、自然インフラストラクチャへの投資、責任ある調達を採用は、清潔な水、土壌、空気の維持に対するマレリのコミットメントの鍵です。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	<b>05 社会と将来世代への貢献</b>	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	---------------------------	----------------------



### より良い世界を築くための戦略的なマレリの施策の例

- 環境リスクをもたらすビジネスパートナーシップの再評価と、事業およびサプライチェーンにおける好ましくない影響への対処。
- すべての材料に関する責任ある調達へのコミットメント。
- より優れた資源効率と生態系への影響の低減のための製品と技術のイノベーション。
- 水、土壌、大気汚染を防止するための廃棄物の厳格な処理。
- 環境の質を脅かす有害な化学物質と材料の使用禁止。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-------------------	----------------------

### 責任ある化学物質および特定物質管理のためのマレリの施策の例

- マレリの製品における環境負荷物質の使用の防止、排除、削減。
- 人の健康または環境に害を及ぼす化学物質、廃棄物、その他の材料の特定、ラベル表示、保管、管理。
- 製品と製造における特定物質の制限と禁止に関する適用法とマレリの要求事項 (ラベル表示と廃棄に関するもの含む) の遵守。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	<b>05 社会と将来世代への貢献</b>	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	---------------------------	----------------------



### 廃棄物を最小限に抑え、リサイクルの取り組みを強化するためのマレリの施策の例

- 廃棄物の大幅な削減、避けられない廃棄物の再利用 (燃料または肥料としての有機物の利用など)、廃棄物処理法の遵守。
- クローズドループ・システムの確立、資源の再利用の奨励、サステナブルなリサイクル材料の採用、分解とリサイクルを容易にする製品の設計。
- International Material Data System (IMDS) を通じた材料のリサイクル率、組成、エネルギー源についての透明性のある報告。
- 水の消費量の追跡と監視、およびリサイクル慣行の実践。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	<b>05 社会と将来世代への貢献</b>	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	---------------------------	----------------------

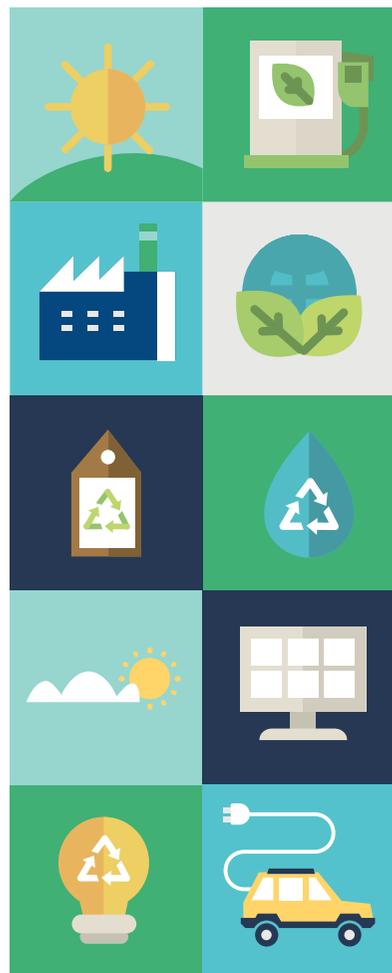
マレリは倫理的な調達を優先し、マレリの材料が人権侵害や環境被害につながらないようにします。

3TG (スズ、タングステン、タンタル、金)、コバルト、雲母、リチウム、銅などの高リスク鉱物に焦点を当て、マレリは以下の施策を実施します。

- 責任ある鉱物サプライチェーンに関するOECDのガイダンスに沿って、紛争や非倫理的慣行に関連する鉱物を避けます。
- 責任ある鉱業のための保証イニシアチブ (Initiative for Responsible Mining Assurance (IRMA)) などの独立監査によって検証された製錬所および精製所から調達します。
- 責任ある鉱物保証プロセス (Responsible Minerals Assurance Process (RMAP)) などの枠組みを通じて、材料の原産地を含むサプライチェーンの記録を保持し、利用可能にします。
- 所定の期限までに、紛争鉱物報告テンプレート (Conflict Minerals Reporting Template (CMRT)) や拡張鉱物報告テンプレート (Extended Minerals Reporting Template (EMRT)) を使用して紛争鉱物に関する年次報告書を提出します。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-------------------	----------------------



倫理的およびサステナブルな調達活動にコミットするため、マレリは以下の基準を満たすことを心がけます。

- 購買活動が、支出権限、会社の承認、および許容される製品またはサービスの種類に関する制限に合致していること。
- ビジネスパートナーを選択する際は、その製品とサービスの質と競争力だけでなく、社会的、倫理的、および環境原則を遵守しているかどうかも考慮していること。

マレリのサステナビリティに関する懸念または要望がありましたら、サステナビリティチームに連絡してください。

目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-------------------	----------------------

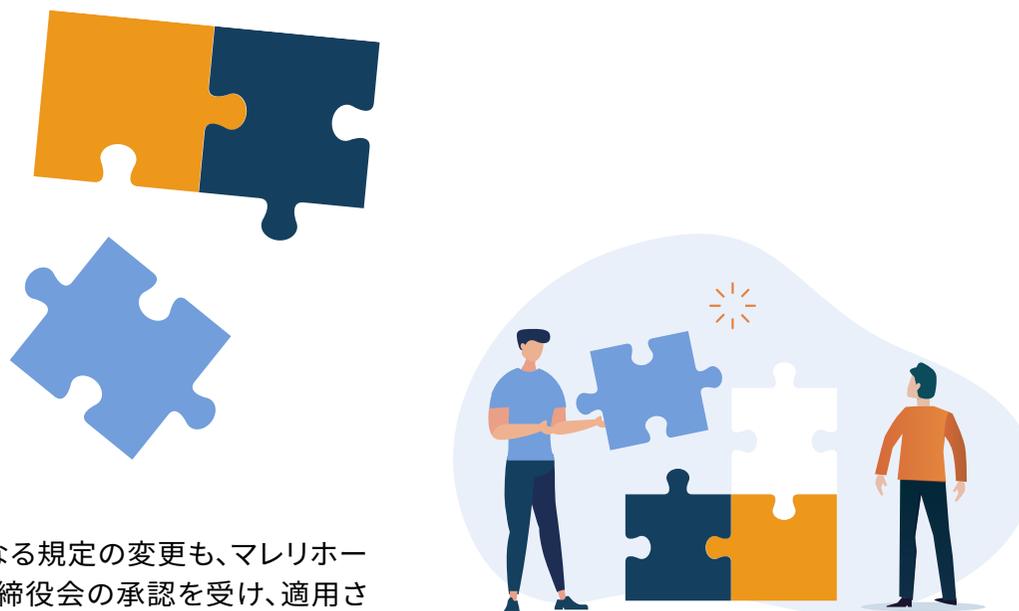
## 06 コンプライアンスと行動規範のその他の側面

### 適用除外と変更

ごくまれに、マレリの従業員（エグゼクティブ・オフィサーまたはシニアファイナンシャル・オフィサーを除く）については、チーフ・リーガル・オフィサー（CLO）が行動規範の適用除外を求めることがあります。

また、マレリホールディングスの取締役会の構成員、エグゼクティブ・オフィサーまたはシニアファイナンシャル・オフィサーに対する行動規範の適用除外や変更は、マレリホールディングスの取締役会の承認を受け、適用される法規制によって求められる場合には速やかに開示しなければなりません。

行動規範のいかなる規定の変更も、マレリホールディングスの取締役会の承認を受け、適用される法規制によって求められる場合には速やかに開示しなければなりません。



目次	01 はじめに	02 個人の責任	03 私たちの会社を守る	04 ビジネスインテグリティ	05 社会と将来世代への貢献	06 コンプライアンスと行動規範の
----	------------	-------------	-----------------	-------------------	-------------------	----------------------

## 抵触

行動規範が現地の法規制に抵触することが判明した場合、適用される法規制によって許容される行動規範の規定のみが適用されます。行動規範の適用性または法律の抵触について疑問がある場合、法務・コンプライアンス部にお問い合わせください。行動規範またはその他のポリシーのいかなる規定も、従業員が適用法の下で権利を行使する法的能力を侵害または制限することを意図していません。

皆さんの地域または国に適用される関連する追加ガイダンスは、マレリの法務・コンプライアンス部を通じて入手できる場合があります。行動規範でリンクされているガイダンスと矛盾がある範囲においてこの追加ガイダンスが優先されます。

行動規範の英語版と、異なる言語に翻訳された行動規範の翻訳版の間に矛盾がある場合、適用法で許容された範囲において英語版が優先されます。

## トレーニング

行動規範および行動規範で言及されているすべてのマレリのポリシーを日常業務で最優先するためには、トレーニングが不可欠です。トレーニングは行動規範の内容に生命が吹き込まれる場であり、マレリの従業員一人ひとりがマレリの文化に関わる上で重要な要素の1つです。そのため、すべての従業員は、行動規範およびマレリのポリシーに関するトレーニングを含む所定のトレーニングを必要に応じて修了しなければならず、これを怠ると懲戒処分または解雇となる可能性があります。



## おわりに

責任を持ってマレリの使命を達成することは、私たち一人ひとりの責任です。

マレリは、その影響力の大きさゆえ、好ましい影響を持つ製品を創り出し、人々の安全を守り、すべての人に貢献するため、高い水準にコミットし、責任を果たすことが求められています。私たちは全員、マレリの使命を達成する責任を共有しています。この意識を持ち、責任ある設計と製造に注力することで、私たちはお互いに支え合い、パートナー企業とともに、そしてグローバルコミュニティ全体のためにイノベーションを続けることができます。

